

題目 第一印象の持続性の日米比較-関係流動性の役割の検討

氏名 森永華子

指導教員 結城雅樹

本研究は、第一印象における、潜在的印象と顕在的印象の持続度に日米差があるのではないかという点、また、日米差があった場合、それは、日米の社会生態学的環境の差が影響を及ぼしているのではないかという点を検討した。本研究では、この問いを、社会生態学的要因の1つである関係流動性 (Yuki et al, 2007) に着目して考えた。関係流動性とは当該社会環境に存在する、新たな対人関係の形成、既存の関係の維持・解消に関する選択自由度のことである。アメリカのような高関係流動社会では、新規関係を構築する機会が多いので、人々は自分と様々な属性が合致する相手と関係作りをするために、本性を隠さず相手に見せる傾向にある。その結果、人々は第一印象を正確なものであると直感的に捉えている。それゆえ、対象人物の第一印象を明確に否定する情報が得られた場合、顕在的印象は変化するものの、潜在的印象は持続するだろうと予測される。一方、日本のような低関係流動社会では、新規関係を構築する機会が少ないので、相手から悪く思われる事のコストは非常に大きいため、初対面の際、集団に馴染もうと本性を隠す。その結果、人々は第一印象を正確なものではないと直感的に捉えている。このため、対象人物の第一印象を明確に否定する情報が得られた場合、新しい情報をより重要視し、顕在的印象・潜在的印象のいずれも持続性はないだろうと予測される。以上の仮説を検証するため、対象人物に関するネガティブな印象情報もしくはポジティブな印象情報を参加者に与えて第一印象を形成させた上で、半数の参加者には、その内容を否定するシナリオを読ませた。IATを用いて潜在的印象を、顕在的質問紙尺度により顕在的印象を測定した。その結果、潜在的印象においては、ネガティブ条件では日米共変化せず、ポジティブ条件ではネガティブ方向に変化した。顕在的印象においては、ネガティブ条件では日米共ポジティブ方向に変化した。また、ポジティブ条件では日本のみ変化しなかった。また、ポジティブ条件の顕在的印象以外、日米差は見られなかった。予測に反した原因としては、シナリオ、用いるイラストの種類・名前、仮説と様々にあると考えられた。また、IATを用いる際には、これら全てが正確でないと予測通りの結果が出ないことが示唆された。今後、このような研究をする際にはシナリオなどを洗練させ、仮説の理論についてもさらなる検討すべきだろう。